

授業科目 リハビリテーション看護学

【担当教員名】 新谷恵子	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】

生活障害に焦点をあて、その人が生活を再構築し、最適生活を営むために必要なリハビリテーション看護のあり方、具体的方法について理解する。

【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】

1. リハビリテーション看護学の概念を理解する
2. リハビリテーション看護が必要な人の特徴を理解する
3. リハビリテーション看護が必要な人の評価方法を理解する
4. リハビリテーション看護過程と援助技術を事例で理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	リハビリテーション看護学の考え方（リハビリテーション看護とは、歴史と変遷、社会資源と制度、ICF）	1	講義：新谷
2	リハビリテーション看護が必要な人の特徴（自己決定、生活の再構築、生活障害ほか）	2	講義：新谷
3	老年看護学領域のリハビリテーションの考え方	3.4	講義：梨本
4	精神看護学領域のリハビリテーションの考え方	3.4	講義：金谷
5	疾患・機能障害からみたリハビリテーション看護の考え方（脳血管障害、急性心筋梗塞ほか）	3.4	講義：栗原
6	疾患・機能障害からみたリハビリテーション看護の考え方（切断、ストーマ造設ほか）	3.4	講義：荒木
7	疾患・機能障害からみたリハビリテーション看護の考え方（関節リウマチ、嚥下障害ほか）	3.4	講義：新谷

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	特に指定しない			
参考書	リハビリテーション看護論、中西純子、ヌーベルヒロカワ／QOLを高めるリハビリテーション看護、 医師薬出版			
その他の資料	厚生白書、厚生省監／国民衛生の動向、厚生統計協会／国民の福祉の動向、厚生統計協会／ リハビリテーション看護（別巻3）；武田直子ほか 看護婦の責任と倫理、日本看護協会出版会／国際生活機能分類（国際障害分類改訂版）、中央法規 適宜プリントを配布する			
【評価方法】		【履修上の留意点】		
試験（80％）と参加状況（20％）により 評価する		授業でできることは限られているので、自ら積極的に文献などを読むことを 期待します。		